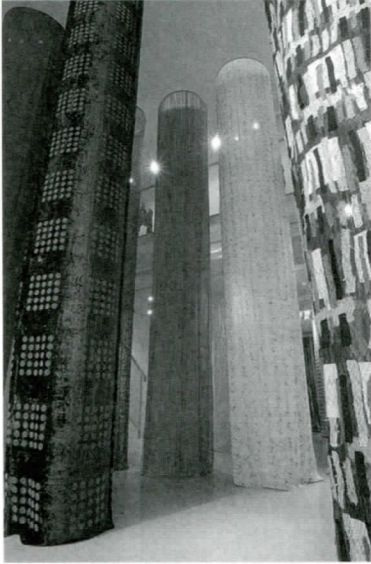


Nuno Circle 須藤玲子展



10月9日～27日まで、大阪成蹊大学芸術学部 学内ギャラリー spaceB に於いて、須藤玲子さんの展覧会「Nuno Circle」展が開催されました。

「Nuno Circle」は、2005年にイギリスでの展示に始まる、布作品を直径70センチほどの円筒形の形態で見せるインスタレーションで、ヨーロッパを巡回した後、日本では初めての展示となりました。

本展では27本の布による円柱が森の木々のように立ち並び、特に吹き抜けの場所ではその高さは6メートル近くにも達し、布とそれを取り巻く空気が作り出す空間は圧巻でした。布が人に与える様々な感覚を増幅させそれに浸りきることの心地よさや、1点1点の布の個性を探訪してゆく楽しさなど、鑑賞者に多くのものを与えてくれる展示であったと感じました。

布に託すイメージやコンセプトを表現するために素材や技法が追求されているのですが、用途によってもたらされる制約が決してその表現の妨げにならないところが須藤さんの布の素晴らしさであるということも、今更ながら目の当たりにすることができました。

また、展覧会期間中の10月13日（土）には、須藤さんによるレクチャーも行なわれ、ホテル「マンダリン オリエンタル 東京」のテキスタイルデザインから制作までの貴重なお話をスライド・ショーを交えてうかがうことができました。ホテルのテキスタイル全体を通してのテーマは「森と水」で、それを元にしたストーリー作り、ドローイング、素材選びや産地とのやり取り、そして、興味深かったクライアントとの駆け引きなど、須藤さんのテキスタイルデザインについて余すところなく語っていただけたように思います。何より、須藤さんのテキスタイルにこめた思いを形にするために産地の皆さんが労を惜しまず向かわれたことや、壁布をたった一人で約8ヶ月を費やして張られた職人さんのお話など、優れた「技」が生かされたという裏話は業界を元気付けてくれる内容であったと思います。

(大手 裕子)

